




名詞修飾構文の対照研究
 平成28年度第一回研究会
 2016年7月9日

What can modify nouns?

Masayoshi Shibatani
 Department of Linguistics
 Rice University

 Graduate School of Letters
 Osaka University
 &
 NINJAL

1

Outline of the talk

名詞修飾構造には、すべてにおいて(?)体言化(nominalization)がからんでいると思われるふしがあるので、本発表は、体言化の本質および準体言(grammatical nominalizations)を中心に話を進める。

- 1 What is nominalization?
 - 1.1 Lexical vs. Grammatical NMLZs
 - 1.2 Structures and their uses
- 2 Modification-use of verbal-based grammatical NMLZs
 - 2.1 So-called relative clauses and other "clausal" modification patterns
 - 2.2 Internal and external properties of grammatical NMLZs
- 3 Nominal-based grammatical NMLZs
 - 3.1 N(P)-based NMLZs
 - 3.2 Numeral-based NMLZs
 - 3.3 Modification by "adjectives"
- 4 Restrictive vs. appositive modification

2

What is nominalization?

It is a **metonymic** process

yielding constructions associated with a denotation comprised of entity (thing-like) concepts that are **metonymically evoked by the nominalization structures**, such as events, facts, propositions, and resultant products ("event nominalization"), as well as event participants ("argument nominalization"), or other concepts closely associated with the input forms.

3

体言化(準体言を作り出すプロセス)は、**メトニミー**という認知メカニズムを基盤としている

メトニミー(換喩): 概念の隣接性あるいは近接性に基づいて、語句の意味を拡張して用いる、比喩の一種である。

英語で読む村上春樹 初めてベートーヴェンを聴く
 「年越し沖縄そば」を食する家庭も多いけれど、…
 (カーリングの) 上位3カ国による五輪出場決定戦があり日本女子の北海道銀行はノルウェーを10-4で破り、…
 日本は1次リーグを2敗1引き分けとして、1次リーグ敗退。

 くじらあります。(高知市内のレストランで)

4

What is nominalization?

It is a **metonymic** process

yielding constructions associated with a denotation comprised of entity (thing-like) concepts that are **metonymically evoked by the nominalization structures** such as events, facts, propositions, and resultant products ("event nominalization"), as well as event participants ("argument nominalization"), or other concepts closely associated with the input forms.

As products,

Nominalizations (NMLZs) are similar to nouns by virtue of their association with an entity-concept denotation; they both denote thing-like concepts, which provide a basis for the referential function of an NP headed by these nominals.

5

「リンゴ」
↓ denotes

文法的体言化形式 (準体言)
「皿の上にあるの (を食べてもいいよ。)」
↓ evokes

Lexiconに納められている名詞類 (lexical NMLZsを含む) は、ある属性のもとに均一的事物を指定概念 (denotation) として持つ。

Grammatical NMLZs (文法的体言化/準体言) は、一時的に作られ、準体言構造によって喚起されうる様々な事物を指定する。

これは、多くのメトニミー表現に見られる特性。

6

メトニミーによって、一つの表現からいくつもの関連する概念が喚起されるが、文脈が適切なものを選ばせる

"the United States"
↓ potentially evokes/denotes

Context evokes/selects an entity-concept most relevant

Etc.

The United States declared war on Iraq eleven years ago.

the United States defeated Japan to avenge last year's loss in the World Cup final and win its fourth gold medal in women's soccer.

Rio de Janeiro, Brazil, July 14, 2013—Brazil defeated the United States 3-0 on Sunday at Rio Rio de Janeiro's Maracanãzinho gymnasium...

準体言の用法についても、通常の場合同様、文脈によってもっとも関連性 (relevance) の高い概念が選択される

山の村の名田庄に駐在していた時、山柿ができると、村の家から貰ったことはある。けれども、熟したのをそのまま食うか、すこし固めなのは、皮をむいて干し柿にするかだった。(水上勉 『故郷』)

このような「の」は、時として代名詞の「の」、または省略の「の」として分析されるが (cf. 山田孝雄の「省約準体言」)、そのような分析は発話解釈における文脈の働きを正しく理解していない。


また、このような助詞「の」に依拠した分析は、準体助詞を持たない方言の取り扱いが問題となる。(準体助詞「の」については、以下で考察する。)

出雲方言
【おっけな】はうまい。 【焼いた】をごしなはい。
「大きいのはうまい。」 「焼いたのを下さい。」

8

山の村の名田庄に駐在していた時、**山柿**ができると、村の家から貰ったことはある。けれども、**熟したのをそのまま食うか、すこし固めなのは、皮をむいて干し柿にするか**だった。(水上 勉『故郷』)

文脈によって



etc.

スパゲッティは、ゆで加減いかが
いたしましょう？

すこし固めなのがいい。

9

外二ミーは往々にして推移的に (transitively) 働く

Team USA players took to social media to share their excitement for representing **the red, white and blue** at the 2014 FIL World Championship ...

the red, white and blue →  → U.S.A.

スペインがヘディングでシュートを決めた。



10

Shibatani (2014その他)
 用言基盤準体言 (Verbal-based NMLZs)のまとめと分類

体言化 Nominalization

- 語彙的体言化 Lexical nominalization (名詞を造る)
 - 事態体言化 (事態/コト名詞) Event nominalization e.g. *employ* → *employment* (遊び、人殺し、お絵かき)
 - 項体言化 (項/モノ名詞) Argument nominalization e.g. *employ* → *employer* / *employee* (人殺し、絵かき、相撲取り (お) 使い、召使い、日雇い)
- 文法的体言化 (準体言*) Grammatical nominalization (品詞的には、名詞を造らない)
 - 事態体言化 (事態/コト準体言) Event nominalization e.g. [that[John employs Bill]] [太郎が花子を雇っている]のはこういう理由からだ。
 - 項体言化 (項/モノ準体言) Argument nominalization e.g. (Marry) [who [you love 〇]] [〇 花子を雇っている]のは太郎だ。 [太郎が〇 雇っている]のは花子だ。

*山田孝雄1908『日本文法論』

11

準体言(文法的体言化)は、次のようなものを喚起する

事態体言化 (event nominalizations)

- (a) 事態・状況・ことがら: [母の酔う]のをいつも見てましたから...
- (b) 事実: 雅子は、[夫にそういう女性がいた]のを知っていた。
- (c) 時間・場所・理由/原因: [雅子が福岡に飛んでいった]のが四月の十二日、[御岳で縊死を遂げた]のが、わずか二ヶ月後の六月十日だからね。 [私が生まれ育った]のは埼玉一その田舎町にある借家だった。 [歩調が速い]のは感情的になっているからだろう。
- (d) 事態参加者 (event participants): (いわゆる主部内在型関係節) ほら、[先生が以前、金魚の絵を描いた]のがあるでしょう? [滑りの悪い引き戸が音をたてる]のをきいて、...
- (e) 事態の結果 (主部内在型関係節の分析では不十分なもの) [祖母の飼っていた十姉妹のさえずる]のが聞こえてくる。 [母が一個の生卵に濃い目に醤油を入れた]のを分けてくれる。 緒方は笑って[シューマイに黄色い芥子をたっぷり塗った]のを、勢いよく口の中に放り込んだ。

項体言化 (argument nominalizations)

主語準体言 (subject nominalization)
 [\emptyset アイスクリームをフランスに持ち込んだ] のは、
 カトリーヌ・ド・メディチだとももの本で読んだ覚えがある。

目的語準体言 (object nominalization)
 [須美子がお土産に \emptyset 買った] のを食べて、旨かった記憶があるので、

項体言化には、主語・目的語等文法項の位置に**必須の空所 (\emptyset)**がある。

事態体言化におこる空所は、埋めることができる。

[私が 端っこや尻っぽを喜ぶ] のは被虐趣味があるのではないかと友人にからかわれたが、...

13

項体言化 (argument nominalizations)

主語準体言 (subject nominalization)
 [\emptyset アイスクリームをフランスに持ち込んだ] のは、
 カトリーヌ・ド・メディチだとももの本で読んだ覚えがある。

目的語準体言 (object nominalization)
 [須美子がお土産に \emptyset 買った] のを食べて、旨かった記憶があるので、

もし、項体準体言の空所を埋めると、

[須美子がお土産に **アイスクリーム**を買ってきた] のを食べて、
 旨かった記憶があるので

事態準体言の形式が得られる。

つまり、**項準体言**は、事態体言化において暗示的な、喚起されるべき要素を
空所によって、明示的に示す構造である。

14

喚起されうる概念が二つあって、あいまいな事態準体言

その大学生は、[**私服**が**スリ**を追いかけている] を捕まえて、ねじ伏せた。

Digueño (Hokan; Southern California)
 [Xatakco \emptyset wi:-m ?tuc]-pu-c n'ily
 dog=DO rock-COM I hit-DEF-SUBJ was black
 'The **dog** I hit with the rock dog with was black.' or
 'The **rock** which I hit the dog with was black.'

事態準体言に空所を設けて、項準体言にすると、

その大学生は、[\emptyset **スリ**を追いかけている] を捕まえて、ねじ伏せた。

その大学生は、[**私服**が \emptyset 追いかけている] を捕まえて、ねじ伏せた。

あいまい性が無くなる。

15

構造とその用法/機能

名詞の二大用法

構造 (Structure)	用法 (Use/Function)
[cotton] _N	名詞句用法 (NP-use) / 指示機能 [[Cotton] _N] _{NP} is a useful commodity.
	修飾用法 (Modification-use) / 限定機能 [[cotton] _N [mills] _N] _N (複合語) [[cotton] _N [shirts] _N] _{NP} (名詞句)

NB: 修飾機能を果たしても、品詞は形容詞に変わらない。
 [[[Egyptian]_A [cotton]_N]_{NP} [shirts]_N]_{NP}
 [[[new]_A [car]_N]_{NP} [smell]_N]_{NP}

16

Shibatani (2014その他)
 用言基盤準体言 (Verbal-based NMLZs)のまとめと分類

体言化
 Nominalization

- 語彙的体言化**
 Lexical nominalization
 (名詞を造る)
- 文法的体言化(準体言*)**
 Grammatical nominalization
 (品詞的には、名詞を造らない)

事態体言化(事態/コト名詞)
 Event nominalization
 e.g. *employ* → *employment*
 遊び、人殺し、お絵かき

項体言化(項/モノ名詞)
 Argument nominalization
 e.g. *employ* → *employer*
employee
 人殺し、絵かき、相撲取り (お) 使い、召使い、日雇い

事態体言化(事態/コト準体言)
 Event nominalization
 e.g. [that[John employs Bill]]
 [太郎が花子を雇っている]の
 はこういう理由からだ。

項体言化(項/モノ準体言)
 Argument nominalization
 e.g. (Marry) [who [you love \emptyset]]
 \emptyset 花子を雇っている]のは太郎だ。
 [太郎が \emptyset 雇っている]のは花子だ。17

*山田孝雄1908『日本文法論』

事態準体言 (event NMLZs)の二大用法*

名詞句用法/指示機能 (ここでは、ある事実)
 [太郎が結婚していた]のを知ってるか?
 Did you know [that [Taro had been married]]?

[太郎が結婚していた]
 [that [Taro had been married]]

修飾用法/内容指定・補充(同格):
 いわゆる外の関係による修飾
 [太郎が結婚していた]事実を誰も知らなかった。
 No one knew the fact [that [John had been married]]

(*他の重要な用法として、助詞などを伴った副詞用法がある。E.g. [太郎が結婚していた]ので、次郎と結婚した。)

18

英語項準体言の二大用法

Structure **Use/Function**

argument NMLZ
 [who(m) you like]_{NMLZ}

NP-use/Referring function
 Invite [[who(m) you like \emptyset]_{NMLZ}]_{NP}

Modification-use/Restricting function
 Invite [the man [who(m) you like \emptyset]_{NMLZ}]_{NP}

So-called relative clauses are nothing but a modification-use of argument nominalizations

19

中古日本語準体言の二大用法

男も、女も、[わかききよげなる]が、いとくろき衣を着たるこそ
 あはれなれ。(枕草子・119)

構造 **用法**

名詞句用法
 [[\emptyset (わかき)きよげなる]_{NMLZ}]_{NP} が...

修飾用法(いわゆる内の関係による修飾)
 [[\emptyset (わかき)きよげなる]_{NMLZ} [男]_N]_{NP}

細太刀に平緒つけて、[きよげなる]男の持てわたるも
 なまめかし。(枕草子・91)

いわゆる「連体修飾節・関係節」とは準体言の修飾用法に他ならない。
 準体言が修飾用法をとっても、それが「関係節」という別構造になるわけではない。

20

関係節構造、すなわち準体言の連体法・関係節用法(修飾用法)とは？

ある概念を別の概念が下位範疇を指定することにより、主部名詞句の概念の限定という修飾機能を負うもの

男も、女も、わかききよげなるが、いとくろき衣を着たるこそあはれなれ。

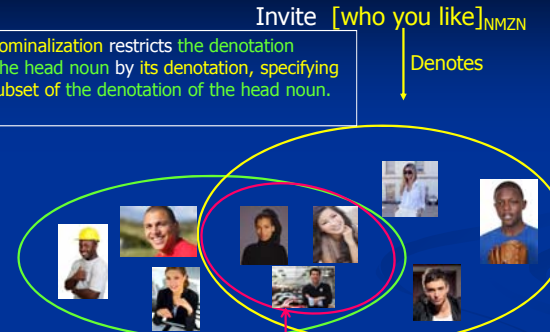
細太刀に平緒つけてきよげなる男の持てわたるもなまめかし。



「きよげなる男」が指定する概念

英語版
What modification by a nominalization (so-called RC) is all about?

A nominalization restricts the denotation of the head noun by its denotation, specifying a subset of the denotation of the head noun.



Invite the [[colleagues]_N [who you like]_{NMLZ}]_{N'}
Restrictive modification of this type is defined as an intersection of two nominal entities (「モノ」による「モノ」の下位範疇の指定)

以上からいわゆる補文 関係節と呼ばれているものは、predication機能を担う「節clause」でも、assertionなどの発話(speech act)機能を担う「文sentence」でもなく、モノを指定(denote)する機能を負う体言(名詞類)に準ずる「準体言grammatical nominalizations」であることが分かる。

[太郎が結婚していた]のを知ってるか？

- [結婚していた]という特性を「太郎」に帰属させたり(predication), このpredicationが正しいと(信じると)明言(assert)したりしていない。
- この準体言は、名詞のように、モノ・コト(ある事実)を指定している。

[太郎が結婚していた] 事実
事態準体言→事実

[太郎が結婚していた] 女
項準体言→モノ
も、同じ。

なぜこのような準体言が従来から「文」だとか、「節」だとか思われてきたのか

[太郎が結婚していた]_{NMLZ} のを知ってるか？

[太郎が結婚していた]_{NMLZ} 事実/女

考えられる理由

- 1 他の人たち (e.g. 先生)がそういうから

Nevis, A., D. Pesetsky, and C. Rodrigues. 2009. Pirahã exceptionality: A reassessment. *Language* 85: 355-404.

1. Sentence?

"A verb may merge with a **sentence**, as in *Mary thinks [that the world is round].*"

"...a noun can merge with a **sentence**, as it does in *(the) claim [that the world is round],...*" (366)

2. Clause?

(7) Y said [**that a boat is coming**].

"If **embedded clauses** like the bracketed constituent in 7 are impossible in Pirahã, as claimed [by Everett 2005], ... " (363)

The apple [**that I am now looking at**] is rotten.
(**clause** embedded within clause) (364)

なぜこのような準体言が従来から「文」だとか、「節」だと思われてきたのか

[太郎が結婚していた]_{NMLZ}のを知ってるか？

[太郎が結婚していた]_{NMLZ} 事実/女

考えられる理由

- 1 他の人たち (e.g. 先生)がそういうから
- 2 構造が節/文と同じか、似ているから

太郎は結婚していた。

26

"Clausal nominalizations/nominalized clauses" – Are they clauses?

Clausal nominalization: "...the verb in such a clause typically has **no nominal characteristics and often has such verbal characteristics as person and number**, though it may be lacking in tense-aspect marking." (Comrie & Thompson 1985:392)

"This [that the nominalizer *ve* in Lahu attaches to any clause—MS] suggests that we should regard the whole process of **nominalization as clausal**. On the other hand, negation in **such clauses** can be expressed in two different ways..." (Koptejvskaja-Tamm 1993:51)

このような観察・研究者は、準体言の**内部特性 (internal properties)**と**外部特性 (external properties)**の区別の重要性、ならびに構造のカテゴリー化の基準についての認識が十分でない。



27

Internal and external syntax of nominalizations

用言基盤準体言 (V-based Grammatical NMLZs) は、内部的特性として動詞的特性 (verbal properties) をある程度持つ。しかし全体的、外部特性は、かなりの程度において、機能ならびに統語的に名詞的 (nominal) である。

that/Ø event NMLZs contain a finite verb, which continues to function as a verb, taking a **full array of arguments**, and being modified by an **adverb**.



Externally, they head an NP (or N'), like any other nouns, and can function as a verb complement (Subject/Object), but that's about all nouniness they display externally; e.g., unlike regular nouns, they cannot be modified by a determiner.

I know [a/the/this **[fact]_N**]_{NP}

I know [*a/*the/*this/(that) **[John shoots trespassers]_{NMLZ}**]_{NP}

したがって、これらは全く同一のカテゴリーに属さない—「名詞(体言)」:「準体言」

28

文法単位の品詞やカテゴリーは、その構造の外部特性により決定される。

語の場合

```

    graph TD
      N --> V[shoot]
      N --> NMLZR[-ing]
      V --- IP[Internal properties]
      NMLZR --- IP
  
```

外部特性によって (number inflection, marking by articles, heading an NP, being modified by an adjective)

文法構造の場合

I know [that [John recklessly shoots trespassers to his properties]]

Externally display important nominal properties, which, together with the semantic properties, determine the category status of this structure

29

なぜこのような準体言が従来から「文」だとか、「節」だと思われてきたのか

[太郎が結婚していた]_{NMLZ}のを知ってるか？

[太郎が結婚していた]_{NMLZ} 事実/女

考えられる理由

- 1 他の人たち (e.g. 先生)がそういうから
- 2 構造が節/文と同じか酷似しているから
太郎は結婚していた。
- 3 意味が似ているから

30

Mandarin Chinese

1. Nà zhī gǒu yǎo rén.
that CLF dog bite people
'That dog bites people.'

2. Wǒ zhīdào [nà zhī gǒu yǎo rén]
I know that CLF dog bite people
'I know that that dog bites people.'

素材表示構造 * [[na zhī gǒu yǎo rén]_{IP/VP?}]_{NMLZ}

機能的に未分化の構造

Assert (Affirm that the predication is true)

Ascribe property (predication)

「節」その他の機能的定義

- 「節」(clause)とはpredicationの機能を帯びている文法構造。
- 「(平叙)文」((declarative) sentence)とは predication を assert する機能を帯びている文法構造。
- 「準体言」(nominalization)とはモノ的概念を denote する機能を帯びている文法構造。

31

「語」レベルにおける機能分化(品詞化)

素材構造が表す事態を、あるモノに対しての時間的推移を有する過程特性として把握

[walk]_V (He walks everyday.)

素材構造 [walk]

素材構造が表す事態をコト的 (thing-like) 事態として把握

[walk]_N (his daily walk)

32

日本語の動詞語根の場合

モノの時間的推移のある特性として把握
[aruk-u]_V (太郎は毎日歩く)

素材構造 [aruk-]

コト的事態として把握
[aruk-i]_N (毎日の歩きを楽しむ方法)

33

形容詞語根の場合

モノの時間的推移のない特性として
[tuyo-i]_A (彼は強い; cf. 強し)

素材構造 [tuyo-]

具体的モノとして
[tuyo-i]_N ([強い]のをくじく; cf. [強き]をくじく)

抽象的モノとして
[tuyo-sa]_N (彼の強さが光る)

様態 (manner) として
[tuyo-ku]_{ADV} (彼を強く推薦します)

以上、機能分化された語(動詞、名詞、etc.)の間の形式的・意味的類似は、それぞれが依拠する素材構造に由来する。

34

同様に、節 (clause)・文 (sentence) と異なったタイプの準体言 (NMLZs) の間のさまざまな程度の構造的・意味的類似は、素材構造の (部分的) 共有による

文

節

素材

準体言

35

Morphological evidence that NMLZs (or so-called RCs) are not clauses/sentences, and that they denote, rather than predicate and assert

Plural-marking on NMLZs/RCs

Yaqui (Uto-Aztecan)

ju <i>sí</i> - <i>m</i>	bisikleeta- <i>m</i>	
child-PL	bicycle-PL	
[in	jinu-ka-'u]- <i>m</i>	sikili
1SG.GEN	buy-PERF-NMLZ-PL	red

'Ones/what I bought are red'

The fact that the NMLZ can be marked by a plural marker indicates that the NMLZ is denoting a thing, not predicating or asserting like a clause/sentence. Sentences in Yaqui can never take the plural marker.

Modification-use of NMLZ

U-me	bisikleeta- <i>m</i>	[in	jinu-ka-'u]- <i>m</i>	sikili
DET-PL	bicycle-PL	1SG.GEN	buy-PERF-NMLZ-PL	red

'The bicycles that I bought are red'

36

Plural marking in Nheengatu (Tupi-Guarani subgroup III,
Brazil; Cruz 2014)

nhaã [yawaka pe iku waa] u-sendu-pa yande
DEM heaven LOC be NMLZ 3SG.A-listen-COMPL we
'The one who is in heaven listens everything from us.'

re-su re-mu-tawari kau [re-yu-mu-kuaku wa]=ita u-mbau arã
2SG.A-go 2SG.A-CAUS-tabacco DEM 2SG.A-R/R-CAUS-be.fasting NMLZ=PL 3SG.A-eat PROS
'You are going to bless those whom you made fast.'

Ai-te paa nhaã pedasu itá=ita [maxi posu upe wa]=ita
3SG=FOC REP DEM piece stone=PL leper well LOC NMLZ=PL
'(They say that) he becomes those stones that are in the well of lepers.'

37

Classifier-marking on NMLZs/RCs

Thai

- a. khruu [lâaj khon]
teacher three CLF.PERSON
'three teachers'
b. mǎa [sǐi tua]
dog four CLF.BODY
'four dogs'

Speaker A: Which skirt do you like?

Speaker B: (chǎn chǎp) [tua [thǐi* khwĕen nay tǔu]]
I like CLF.BODY NMLZ hang in closet
'(I like) the one hanging in the closet'

Modification-use

Speaker B': chǎn chǎp krǎpooj [tua [thǐi khwĕen nay tǔu]]
I like skirt CLF.BODY NMLZ hang in closet
'I like the skirt which is hanging in the closet.'

(*thǐi is typically glossed REL in the literature.)

38

Cantonese

[nǐ dī] yú [sām go] hohksāang
this CLF fish three CLF student
'this fish' 'three students'

[[Ngóhdeih hái Faatgwok sihk] dī] yéh géi hóu-sihk ga.
we in France eat CLF food quite good-eat PRT
'The food [we ate in France] was pretty good.'

[[Gaaui léih tàahn kàhm] gó] go?
teach you play piano that CLF
'The one who teaches you (play the) piano?'

Matthews, Stephen and Virginia Yip. 1994. *Cantonese: A Comprehensive Grammar*. London and New York: Routledge

39

Barasano (Colombia; Jones and Jones 1991:150)

(480) hūu ō kāhi-ri-ku ābo-a-ha yu
hammock there hang-PTCPL-hammock want-PRES--3 1s
I want that hammock which is hanging there.

(481) ō kāhi-ri-ku ābo-a-ha yu
there hang-PTCPL-hammock want-PRES--3 1s
I want that hammock which is hanging there.

Lit. 'I want that hammock-thing.'

Jonese, Wendell and Paula Jonese. 1991. *Barasano Syntax*. Dallas; Summer Institute of Linguistics.

40

Newar (Sino-Tibetan; Nepal)

Animate classifier **-mha**

a. ni-**mha** masta
two-CLF.ANIM child
'two children'

b. [ana dan-ā cwā:=**mha**] rām=yā(=**mha**) macā kha:
there stand-CM exist.ND=/NMLZR Ram=GEN(=NMLZ) child COP
'The one standing there is Ram's child.'

c. [ana dan-ā cwā:=**mha**] macā rām=yā=**mha** kha:
there stand-CM exist.ND=NMLZ child Ram=GEN=NMLZ COP
'The child standing over there is Ram's.'

Inanimate classifier **-gu:**

a. ni-**gu:** saphu:
two-CLF book
'two books'

b. [ana du=**gu**] rām=yā(=**gu**) gāri kha:
there exist.ND=NMLZ Ram=GEN(=NMLZ) car COP
'The one that is there is Ram's car.'

c. [ana du=**gu**] gāri rām=yā=**gu** kha:
there exist.ND=NMLZ car Ram=GEN=NMLZ COP
'The car that is there is Ram's.'

41

English

a. Marry [**who** [you love]]
HUMAN

a'. Marry a man [**who** [you love]]
HUMAN

b. You may choose [**which** [you like]]
NON-HUMAN

b'. You may choose a dog [**which** [you like]]
NON-HUMAN

a', b'に見られる who, which等は、通常関係代名詞とみなされているが、本研究では、これらを体言化辞 (nominalizer) だと考える。以下にみる他言語の体言化辞のように、これらは項準体言が指定するモノの文法的・意味的特性を標示する役割を果たす。

42

ドイツ語体言化辞 der, die, das, etc.

a. Ich empfangе den, [**der/die/das** ∅ morgen kommt].
I receive ART SUB.NMLZR.MASC/FEM/NEUT tomorrow comes
'I receive the one who comes tomorrow.' (主語準体言)

b. Ich empfangе den, [**den/die/das** du mir ∅ vorgestellt hast].
I receive ART DO.NMLZR/MASC/FEM/NEUT you me introduce have
'I receive the one whom you introduced to me.' (直接目的語準体言)

c. Ich empfangе den, [**dem** du ∅ den Brief gegeben hast]. (間接目的語)
I receive ART IO.NMLZR you ART letter give.PP have 準体言
'I receive the one whom you gave the letter.'

d. Ich empfangе den, [**dessen** ∅ Buch ich gelesen habe] (属格準体言)
I receive ART GEN.NMLZR book I read.PP have
'I receive the one whose book I have read.'

これらはすべて、修飾用法をもつ。

a'. Ich empfangе den/die/das Mann/Frau/Mädchen,
[**der/die/das** ∅ morgen kommt].

準体言の形態論 - 体言化辞(nominalizer)の役割

日本語や、韓国語・中国語などでは、項準体言は空所によってのみ、喚起されるべき項が示されるが、

主語準体言

その大学生は、[∅ スリを追いかけている]のを捕まえて、ねじ伏せた。

目的語準体言

その大学生は、[私服が ∅ 追いかけている]のを捕まえて、ねじ伏せた。

中国語(普通話)

a. [∅ zài nàr diào yú]=de shì Xiǎo Wáng (主語準体言)
LOC there angle fish=NMLZR COP Little Wang
'The one fishing there is Little Wang.'

b. [háizi zài nàr diào ∅]=de shì lǐ yú (目的語準体言)
child LOC there angle =NMZ COP carp
'What Little Wang is fishing there is carp.'

他の多くの言語では、空所に加え、喚起されるべき項の文法特性を示す
標示形式がある

Austronesian focus morphology marks the argument types evoked
Mayrinax Atayal (Formosan; based on Huang 1995)

a. Actor focus (Actor nominalization)
βaq-un=mu ku? [m-aquwas Ø] ka? haca?
know-PF=1SG.GEN NOM.REF AF-sing LINK that
'I know that singer/one who is singing there.'

b. Patient focus (Patient nominalization)
ma-hnuq ku? [β-in-ainay Ø nuk? naβakis]
AF-cheap NOM.REF buy<PF,REALIS>buy GEN.REF old.man
'What the old man bought was cheap.'

c. Locative focus (Locative nominalization)
yāhəpuyan ku? [naniq-an Ø cu? βuŋa? nku? ʔulaqi?]
kitchen NOM.REF eat-LF ACC.NONREF yam GEN.REF child
'The kitchen is (the place) where the child eats yam.'

d. Circumstantial focus (benefactive/instrumental nominalization)
ini=mu s? wa?=i ku? [si=ghahapuy Ø nku? kanairil]
NEG=1SG like=LF NOM.REF CF=cook GEN.REF woman
'I don't like the one for whom the woman cooks.'

Austronesian focus morphology同等の項タイプ表示機能を
もつ準体マーカー

Qiang (羌Tibeto-Burman; China): subject/agent (-m, etc.) ,
object/patient (-Ø + GEN), instrumental (-s, etc.)

Yaqui (Uto-Aztecan; Mexico): subject (-me), object (-'u), locative (-'apo)

Kamaiurá (Tupí-Guaraní; Brazil): S(-ma'e), A (-taθ), P (-ipyθ), O (-em),
OBL (-waθ) etc.

Quechua (Bolivian): subject (-q), non-subjects (-sqə)

Turkish: subject (-En), object (-dik/-cek plus a personal suffix)

German: subject (der), object (den), indirect object (dem), genitive (dessen)

English: subject (who), object (whom), genitive (whose), time (when),
place (where), reason (why), manner (how); human (who(m)),
non-human (which)

Newar (Tibetan; Nepal): animate (-mha), inanimate (-gu)

Noun modification by other types of nominals

名詞(句)基盤準体言 (Nominal-based nominalizations)

「私がやりましょう」
「いいのよ、これはラブレターだから」
衣久女が笑って言った。
「先生のですか」

「桔梗は鎌倉にずいぶんと咲くそうです。瑞泉寺に東慶寺が有名だそうです」
「志津こそよく知っているね」
「私のは受け売りでございます」
「花屋のか？」
「いいえ、お花の先生でございます。…」 (伊集院 静『白秋』)

これらは、名詞(句)基盤の準体言で、基盤名詞(句)が指定するものと密接に
関連するモノをメトニミー的に喚起し、それを指定する。


47

これらの体言基盤準体言が具体的に何を指示するかは、他のメトニミーの
場合と同じく文脈が決める

体言基盤準体言

そのころ、文学少年の無邪気さで、小説家二十人ぐらいの
住所を『文芸年鑑』で調べ、年賀状を出したことがあった
が、年が開けて返事が来たのは、川端康成と小沼丹だけだ
った。川端康成のは本箱の上にかざり、小沼丹のは抱いて
寝た。
久世光彦『ひと恋しくて—余白の多い住所録』

文脈によって

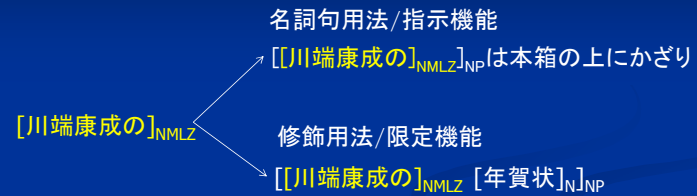


その他

もう読まない本は、全部処分してしまったけれど、
川端康成のは残しておいた。

48

体言基盤準体言の二大用法



NB: このタイプの修飾も、名詞「川端康成」が直接主名詞を修飾しているのではなく、**基盤名詞が指定しているものと密接にかかわるモノを指定する準体言が主名詞を修飾している**。修飾構造が指定するものは、用言基盤準体言の場合と同様に、具体化されたモノと主名詞が指定するモノの交差領域にあるモノである。

49

Evidence for N-based NMLZs

1. 意味的に、体言基盤準体言も用言基盤のもの同様、基盤構造からメトニミー的に導き出されるモノを指定 (denote) する。
2. 体言基盤準体言によって指定されているモノも、用言基盤準体言とおなじく、文脈によって最も関連性の高いモノが選択・同定される。
3. 多くの言語において、体言基盤準体言には用言基盤準体言の場合と同じ形態標示が見られる。

1 体言基盤準体言と用言基盤準体言が同じ形態標示を受ける言語

Mandarin Chinese (Sino-Tibetan)

N-based NMLZ: NP-use

Zhè běn shū shì [wǒ=**de**].
that CLF book is I=NMLZR
'That book is mine.'

Modification-use

[wǒ=**de**] shū
I=NMLZR book
'my book'

V-based NMLZ: NP-use

[wǒ mǎi=**de**] shì zhè běn shū
I buy=NMZR is that CLF book
'What I bought is that book.'

Modification-use

[wǒ mǎi=**de**] shū
I buy=NMZR book
'the book which I bought'

Lahu (Tibeto-Burman; Matisoff 1973)

[yá **ve**] và?
he NMLZR pig
'his pig'

[chu **ve**]
fat NMLZR
'fat one'

[chu **ve**] và?
fat NMLZR pig
'fat pig/pig that is fat'

Nepali (IE; Indo-Aryan)

[us=**ko**] kitab
he.OBL=NMLZR book
'his book'

[john=le ma=laai di-e=**ko**]
John=ERG I=DAT give-PERF=NMLZR
'what John gave me'

[john=le ma=laai di-e=**ko**] kitab
John=ERG I=DAT give-PERF=NMLZR book
'book which John gave me'

Old Babylonian/Akkadian (Semitic; Adrian Macelaru p.c)

bītum ša awīlim ša āmuru
 house.NOM NMLZR man.GEN NMLZR I.saw
 'man's house' 'what I saw'

bītam ša āmuru
 house NMLZR I.saw
 'house which I saw'

Soqotri (Semitic, South Arabian; Shibatani & Khaled Awadh Bin Makhashen 2009)

fa:nε dε ɤəʃ dε jə-ʕa:lʒen birhe
 face NMLZR man NMLZR 3.SG.M.IMP-love children
 'man's face' 'one who loves children'

ɤəʃ dε jə-ʕa:lʒen birhe
 man NMLZR 3.SG.M.IMP-love children
 'man who loves children'

Lamaholot (Austronesian; Nagaya 2011)

a. Inalienable Hugo tilu (tilu + ~)
 Hugo ear.3SG.NMLZR
 'Hugo's ears'

b. Alienable (Hugo) laŋoʔ=kə
 Hugo house=3SG.NMLZR
 'Hugo's/his house'

wuʔũ=kə [(yang) Sius hope=kə]
 new=3SG. NMLZR NMLZR Sius buy=3SG.NMLZR
 'new one' 'what Sius buys'

oto [yang Sius hope=kə]
 car NMLZR Sius buy=3.SG. NMLZR
 'car which Sius buys'

Genitive-relative parallels (Aristar 1991:10)

FAMILY	LANGUAGE	RELATIVE CLAUSE MARKER	GENITIVE MARKER	
Nilo-Saharan:	Anywa	mana/mo	sg. ma-r pl. mo	
		Luo	ma sg. ma-r pl. mo-g	
	Lotuxo	m.sg.	ɔllɔ	ɔlɔ
		f.sg.	anna	ɔnɔ
		pl.	xullo xunna	xulo xuno
Bari	m.	lɔ	m.sg. lɔ	
	f.	na	f.sg. na	
			pl. ti	
Semitic:	Syriac	d	d	
	Hebrew	še	še	
	Akkadian	ša	ša	
	Amharic	yä-	yä-	
	Ge'ez	zä-	zä-	
Chadic:	Hausa	-(i)n-da	-(i)n	
Cushitic:	Rendille	m.	-ki	
		f.	-ti	

FAMILY	LANGUAGE	RELATIVE CLAUSE MARKER	GENITIVE MARKER
Niger-Congo:	Fula	∅ ~ GEN/REL CONCORD	∅ ~ GEN/REL CONCORD
Sino-Tibetan:	Chinese	de	de
	Lahu	ve	ve
Austronesian:	Tagalog	-ng	-ng
		Palauan	Hum.sg. -əl Hum.pl. -ir Non-hum. -əl
	Yapese	-n	n
	Woleaian	-l	le
Australian:	Nunggubuyu	-yiñuŋ	-yiñuŋ
	many lgs.	-ku	-ku
	Bandjalang	-na:	-na:
Indo-European:	Old Persian	hya	hya
Isolates:	Sumerian	-(a)k	-(a)k
	Japanese	no ~ ∅	no
Unclass.:	Hua	-ma'	sg. ma' pl. -'i-di'

TABLE 1. Genitive and relative comparative morphology.

Aristar, Anthony. 1991. On diachronic sources and synchronic pattern: An investigation to the origin of linguistic universals. *Language* 67:1-33.

2 体言基盤・用言基盤の体言化辞は異なるものの、**両形式の名詞句用法において共通の形態標識を受ける言語**

Telugu (Dravidian: courtesy of Subbarao)

N-base NMLZ: NP-use Modification-use
 a. i-di naa-di this-NM mine-NM* 'This is mine.'
 b. i-di naa pustakam. this-NM mine book 'This is my book.'

V-based NMLZ: NP-use Modification-use
 a. neenu [John icc-n-a]-di I give-pst-NMLZR-NM read 'I am reading [what John gave me].'
 b. [John icc-n-a pustakam] give-pst-NMLZR book 'book which John gave me.'

*NM = nominalization marker 準体言の名詞句用法を標示する。体言化辞 (nominalizer) ではない。

57

Korean

N-based: NP-use Modification-use
 a. emeni=**uy**]=**kes**=un ku chaek i-ta. mother=NMLZR=**NM**=TOP that book COP=IND 'Mother's is that book.'
 b. [emeni=**uy**] chaek mother=NMLZR book

V-based: NP-use Modification-use
 a. Na=nun [apeci=ka cwu-**n**]=**kes**=ul I=TOP father=NOM give-NMLZR=**NM**=ACC read-CON-be-IND 'I am reading what father gave (me).'
 b. [apeci=ka cwu-**n**] chaek father=NOM give=NMLZR book 'the book which father gave me'

- NMLZR for N-based NMLZ=**uy**; NMLZR for V-based NMLZ=**-n**
- NMLZR occurs in both NP- and Modification-use; **NMs** occur only in NP-use

58

Newar (courtesy of Kazuyuki Kiryu)

NP-based: NP-use Modification-use
 a. thwa gāri rām=**yā**=**gu** kha: this car Ram=NMLZR=**NM** COP 'This car is Ram's.'
 b. rām=**yā**(=**gu**) gāri Ram=NMLZR(=**NM**) car 'Ram's car'

V-based: NP-use Modification-use
 a. [ana du]=**gu** there exist.NMNLZ=**NM** Rām=**yā**(=**gu**) gāri kha: Ram=GEN(=**NMLZ**) car COP 'The one that is there is Ram's car.'
 b. [ana du] gāri there exist.NMLZ car 'car which is there'

59

日本語諸方言

N-based: NP-use Modification-use
 熊本県八代市 [太郎の]つ (見せて) [太郎の]手 この「の」は体言化辞 (NMLZR)
 高知県中土佐市 [太郎の]が (見せて) [太郎の]手
 新潟県魚沼市 [太郎ん]がん (見せて) [太郎ん]手
 大阪弁 [太郎の]ん (見せて) [太郎の]手 「つ」、「が」、「がん」、「ん」は名詞句用法標識 (NM)

A-based: NP-use Modification-use
 熊本県八代市 [赤か]つ (欲しい) [赤か]花
 高知県中土佐市 [赤い]が (欲しい) [赤い]花
 新潟県魚沼市 [ああけえ]がん (欲しい) [ああけえ]花
 大阪弁 [赤い]ん (欲しい) [赤い]花

V-based: NP-use Modification-use
 熊本県八代市 [こわれた]つ (捨てた) [こわれた]おもちゃ
 高知県中土佐市 [こわれた]が (捨てた) [こわれた]おもちゃ
 新潟県魚沼市 [こわれた]がん (捨てた) [こわれた]おもちゃ
 大阪弁 [つぶれた]ん (ほかした) [つぶれた]おもちゃ

東京弁

N-based: **NP-use** [太郎の]の*(見せて) Modification-use [太郎の]手
 ↓
 ∅

A-based: [赤い]の***(欲しい) [赤い]花

AN-based: [綺麗な]の***(欲しい) [綺麗な]花

V-based: [こわれた]の***(捨てた) [こわれた]おもちゃ

* (漱石が自分の謡いのよしあしについて) 「...俺のものもそんなにいいと思っ
 ているわけではないが、まあ奥のをきいてみるよ、...」
 (夏目鏡子 述・松岡 譲 筆録 『漱石の思ひ出』初版1928年改造社)

** いわゆる準体助詞の「の」は、体言化辞(nominalizer)にあらず。この「の」は、
 準体言の名詞句用法を標示するNM(nominalization marker)。一方、体言基盤
 準体言にみられる「の」、いわゆる属格助詞「の」、は体言基盤準体化辞
 (nominalizer)である。

61

数詞(体言)基盤準体言

いわゆる、数量詞/助数詞(numeral classifier)/類別詞(classifiers)

日本語
 二匹の犬 *二犬 二羽の鳥 *二鳥

Thai
 aacaan sǎam khon *aachan sǎam mǎa sǎam tua *mǎa sǎam
 teacher three CLF.HUMAN dog three CLF.BODY
 'three teachers' 'three dogs'

62

言語によっては、数詞以外の品詞にも数量詞・類別詞が付加する

Yagua (Peruvian Amazonia; Payne 1985:251)
 a. [jivvyeɣ deerámiɣ] b. [jichee núúchee]
 jiy-vay DEM-CLF.ANIMATE.PL children jiy-see DEM-CLF.SHORT.STICK pencil
 'these children' 'this pencil'

Hmong
 a. [kuv lub] rooj b. [kuv tus] nplaig
 I CLF table I CLF tongue
 'my table' 'my tongue'

a. daim ntawv b. phau ntawv c. tsab ntawv
 CLF paper CLF paper CLF paper
 'sheet of paper' 'book' 'letter'


以上から、数量詞・類別詞の本務は、数詞その他名詞類の体言化(nominalization)にある、と考える。通常の体言化辞は、指定されているモノを類別化しないのに対し、数量詞・類別詞は、体言化とともに類別を行う働きがある。

63




体言化 準体言 準体言

二(に、ふた-) → 二匹 二人




↓ ↓ ↓

"2"

 Etc.

↓ ↓ ↓




 Etc.

↓ ↓ ↓




 Etc.

数詞基盤準体言も、すべて修飾用法と名詞句用法を持つ

修飾用法
 [三人の娘たち]は、声を失ったまま、じっと父の後ろ姿を見ていた。

名詞句用法
 勝又は弱気なハミングで、滝子の歌に唱和した。
 二人はまたもや声を合わせて笑った。

咲子は二人を押しやった。



「買うんなら、二人に同じものは買わないよ」
 「気持ち、三人から」 (向田邦子『阿修羅のごとく』)

“先行詞” なしに使える
 非常に強い台風1号は、8日朝、台湾に上陸し、これまでに2人が死亡、72人がけがをするなどの被害が出ている。
 (フジテレビ系(FNN) 2016年7月8日(金)20時23分配信)

65



これらの数詞基盤準体言は、他の体言のようにさらに体言化しうる

買った卵は、六個を冷蔵庫にしまい、四個をカウンターに置いておいた。

バラバラ(またはセット?)

買った卵は、六個の(ん)を冷蔵庫にしまい、
 四個の(ん)をカウンターの上に置いておいた。

セットになったもの

修飾用法
 六個の卵 (バラバラ/セット)

66

類別詞を持たない言語の場合

二つの状況

- 1 性 (Gender) による類別
- 2 性による類別もないもの

67




Portuguese (gender classification)

A: Quantos carros você vê?
 'How many cars (MASC) do you see?'

B: Dois.
 two.MASC

修飾用法
 B: Dois carros.

dois
 two.MASC →


etc.

By context

Portuguese

A: Quantas vacas você vê?
'How many cows (FEM) do you see?

B: **Duas.** 修飾用法
two.FEM B': **Duas** vacas.

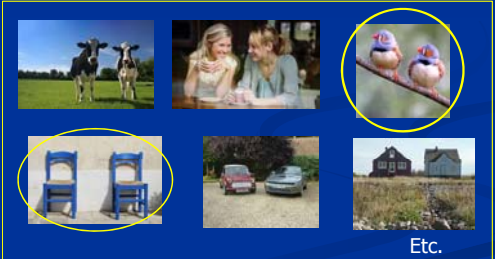
duas →  etc.

two.FEM

By context

English (non-classifier, non-gender language)

How many birds do you see?
How many chairs do you see?

[two]_{NMLZ} →  Etc.

修飾用法
two birds
two chairs

nominalized

By context

Evidence that these expressions are nominalizations denoting "things"

Speaker A: Are there cows out there? (English)
Há vacas ali? (Portuguese)

Speaker B: Yes, I see three.
Sim, eu vejo três.

One **is** eating grass, and two **are** drinking water.
Uma está comendo capim e **duas estão** bebendo água.

Speaker A: Are there cars out there?
Há carros ali?

Speaker B: Yes, I see three.
B: Sim, eu vejo três.


One **is** blue and two **are** red.
Um é azul e **dois são** vermelhos.

71

Compare the above with the following, where numerals denote numbers and numerals (letters):

(Talking about numbers.)

Two **is** larger than one.
Dois **é** maior que um.



(Looking at the above numerals)

One **is** blue and two **is** red.
Um **é** azul e dois **é** vermelho.

72

いわゆる形容詞による修飾

Do adjectives really modify a noun?

中古日本語の場合

準体言の修飾用法 [強き] 者	用言基盤準体言 (NMLZ) [強き] をくじく
--------------------	-----------------------------

現代語の場合

[強い] 者	[強い] のをくじく 名詞句用法標識 (15世紀以降に発達)
--------	-----------------------------------

Cf. [きのう来た] 者 [きのう来た] のに会った

73

印欧語の場合

名詞/準体言による修飾用法

Sanskrit: a. saḥ [śukla:m ga:m] a:nayati
 he white.F.SG.ACC cow.F.SG.ACC bring.3SG.PRES
 'He brings a white cow.'
 (白き牛を連れてくる)

名詞または準体言

b. saḥ [śukla:m] a:nayati
 he white.F.SG.ACC bring.3SG.PRES
 'He brings a white (one).'
 (中古日本語: 白きを連れてくる)

74

Romance languages

Brazilian Portuguese

a. O meu carro é azul. the my car is blue 'My car is blue.'	名詞・準体言の修飾用法 um [carro azul] a car blue 'a blue car'
---	--

b. O meu carro é um/o azul. ← 名詞/準体言
 the my car is a/the blue
 'My car is a/the blue (one).'

Would a "real" noun occur similar to an adjective, like (a), without an article?

a'. Eu sou arquiteto. Yes!
 I am architect
 '*I am architect.'

b'. Eu sou um arquiteto.
 I am a architect
 'I am n architect.'

75

英語の場合

a. O meu carro é azul. the my car is blue 'My car is blue.'	名詞/準体言の修飾用法 um [carro azul] a [blue car] (one は修飾用法に現れない)
---	--

b. O meu carro é um/o azul.
 the my car is a/the blue
 'My car is a/the blue one.' ← 準体言の名詞句用法

用言基盤準体言の名詞句用法標識 (cf. 日本語の準体助詞)

用言基盤準体言 名詞句用法
 Cf. Marry one [whom you love] (中期英語まで盛んに使われた)

↑
∅

Marry a man [whom you love] (修飾用法には one は現れない)

以上のように、いわゆる形容詞による修飾も、モノを指定する名詞/準体言の修飾用法である可能性がある。

76

いよいよ最後のトピック！

限定修飾と同格修飾

同格の「の」

[[三人の] 娘たち] は、声を失ったまま、じっと父の後ろ姿を見ていた。

いわゆる属格の「の」

綱子と鷹男が口々に言う。滝子は [[二人の] 言葉] を聞き流して、…。

二つは、どう違うのか？

77

理想的な同格修飾

[日本の首都の] 東京 [日本の首都の] = [東京]
(“=” 同一指示)

名詞句用法
 えっ、東京？ [日本の首都の] ですか？

限定修飾の「の」

[二人/花子の] 言葉 [二人/花子の] ≠ [言葉]

78

同格修飾も限定機能を果たしえる

ナスの漬物 きゅうりの漬物 うりの漬物

漬物は、[ナスの(漬物)]でなくて、[きゅうりの(漬物)]を買ってきて。

医者の叔父さん 弁護士の叔父さん 新聞記者の叔父さん

したがって、同格修飾と限定修飾という対立は、二つの修飾構文の根本的対立ではない。

では、「同格」・「限定」とは、何が違うのか？

79

「同格修飾」の主部名詞

ナスの₂煮物/煮たの

“ナス！” ナスを煮たの

80

